

小学校体育科 年間指導計画作成のポイント

会津教育事務所 H26.1.8

新学期を迎え、各校では次年度の教育課程編成の本番を迎えていることと思います。現行の小学校学習指導要領が全面実施となって4年目となります。改訂の基本方針や教育課程編成の一般方針等を十分に理解した上で、自校の実態にあった教育課程を編成することが求められています。以下は、体育科における教育課程編成上のポイントを示しましたので参考にしてください。



1 情報の収集と作成方針の決定

- 現在の指導計画を見直す。
- 体力向上推進計画や体力・運動能力テストの結果を踏まえ、自校における成果と課題を明確にする。
- 関係教科や領域の担当者から、改善に向けた意見を聞くなど情報を収集する。

2 学年や単元の目標の設定

- 小学校6年間の見通しに立って定める。
- 学習指導要領との整合性を図る。
- 教育目標、学校経営ビジョン、行政の施策等との関連を図る。

3 指導計画作成上の配慮事項 (小学校学習指導要領解説 体育編 P.86~88 を参考)

実態に応じた計画

- 学校や地域の実態（自然環境や施設設備など）を考慮する。
- 児童の実態（発達の特性や運動への興味関心、技能の習熟の程度など）に即した、いわゆる個に応じた学習指導を工夫する。
- 児童が進んで運動の楽しさに触れたり技能を身に付けたりすることができるよう工夫する。

領域のバランスを考慮した授業時数の配当

- 運動領域の目標及び内容は、低・中・高学年の3段階に分けて示されており、2年続けて取り上げて指導するのか、またはいずれかの学年で扱うのかを決定する。
- 「体づくり運動」は、毎学年で取り扱う。
- 扱う内容は、学習指導要領解説に示された例示を参考にする。

保健領域の授業時数

- 第3学年及び第4学年では2年間で8単位時間、第3学年及び第4学年では2年間で16単位時間程度を配当する。なお、効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当する。

道徳の時間などとの関連

- 道徳心をはぐくむ指導内容となるよう配慮する。
- 道徳教育全体計画との関連を図る。

4 確認事項 *これまでの学校訪問における反省等から

□ 学習指導要領の内容が全教師に浸透していますか？

教科の目標は、豊かなスポーツライフの実現に向けて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培うこと、各種の運動の楽しさや喜びを味わうことです。この目標を達成するには、指導に関わる全教師が学習指導要領を熟知する必要があります。

□ 学年間や小・中学校の接続を考慮し作成していますか？

現行の学習指導要領は、小学校から高等学校までの12年間にわたって、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容が整理され体系化が図られています。年間指導計画の作成にあたっては、学年や校種間の接続を図る必要があります。なお、他校種の指導内容については、次の「5 年間指導計画を作成する際の資料等（リンク先）」に示す「指導内容の体系化整理表」を参考にしてください。

□ 実態を踏まえ、十分な指導計画となっていますか？

下級生の方が上級生よりレベルの高い運動を学習していたり、同学年にもかかわらずクラスによって異なった領域の学習をしたりしてはいないでしょうか。6年間のスパンで全体を見通し、かつ中学校との接続を意識した計画となることが重要です。

□ 授業は適切に行われていますか？

行事を実施するための時間となったり、学年体育を頻繁に行い少人数指導が実践されなかったりということはないでしょうか。体育の時間を確実に確保し、運動量を確保しつつ個に応じた適切な指導を行うことが大切です。

□ 関係教科や領域との連携や調整はされていますか？

食育、防災教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、さらには放射線教育など、様々な健康課題に対する教育の充実が求められています。これらに対応するには、関係教科や領域、関係職員などと連携を図って実施することが重要です。

5 年間指導計画を作成する際の資料等（リンク先）

- 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』（国立教育政策研究所）

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

- 会津教育事務所ホームページ『教科の部屋』 保健体育
平成24年度 体育・保健体育科年間指導計画作成のポイント

- 平成24年度子どもの体力向上指導者養成研修会資料

- 体育・保健体育科の領域
- 運動の行い方・計画と実践などの例
- 保健（内容）

- 指導内容の体系化整理表

- 体づくり運動
- 器械運動系
- 陸上運動系・陸上競技
- 水泳系
- ボール運動系・球技
- 武道
- 表現運動系・ダンス